

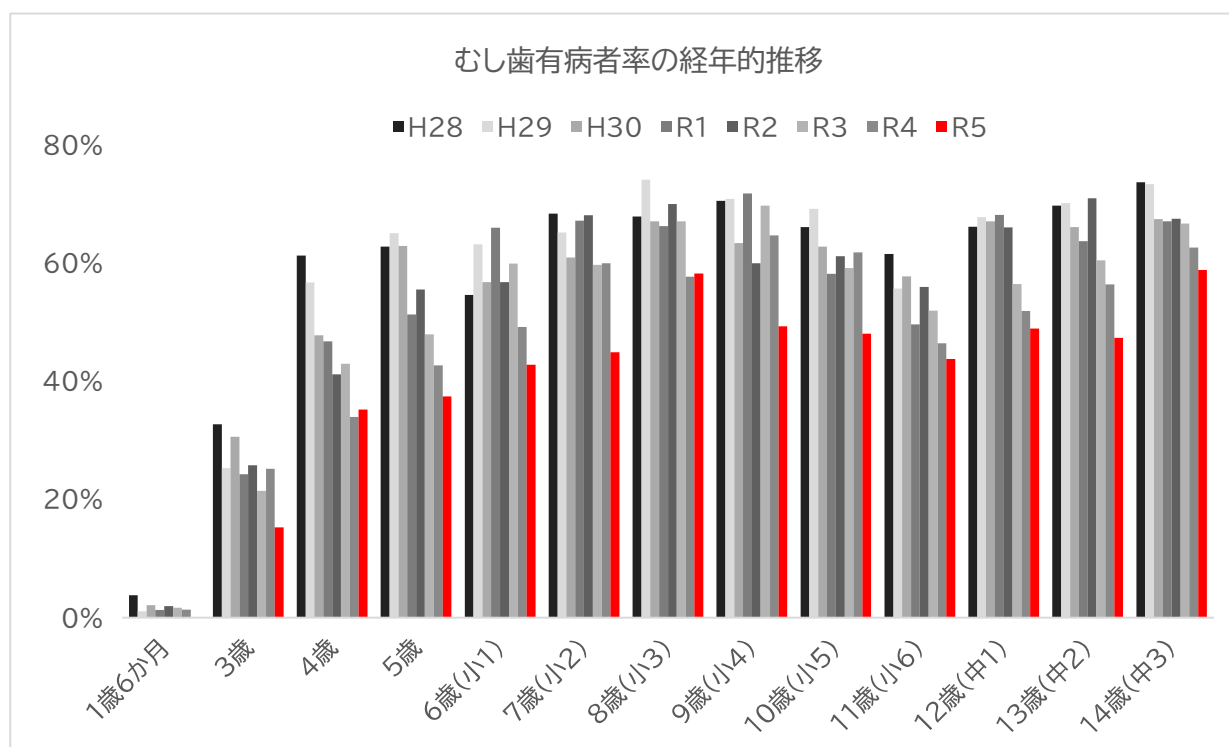
南島原市の子どもの歯科保健の現状と課題

出典:母子保健実績報告・学校保健会報(公立学校のみ)

1 南島原市の近年の状況を見てみました

(1) 経年的推移

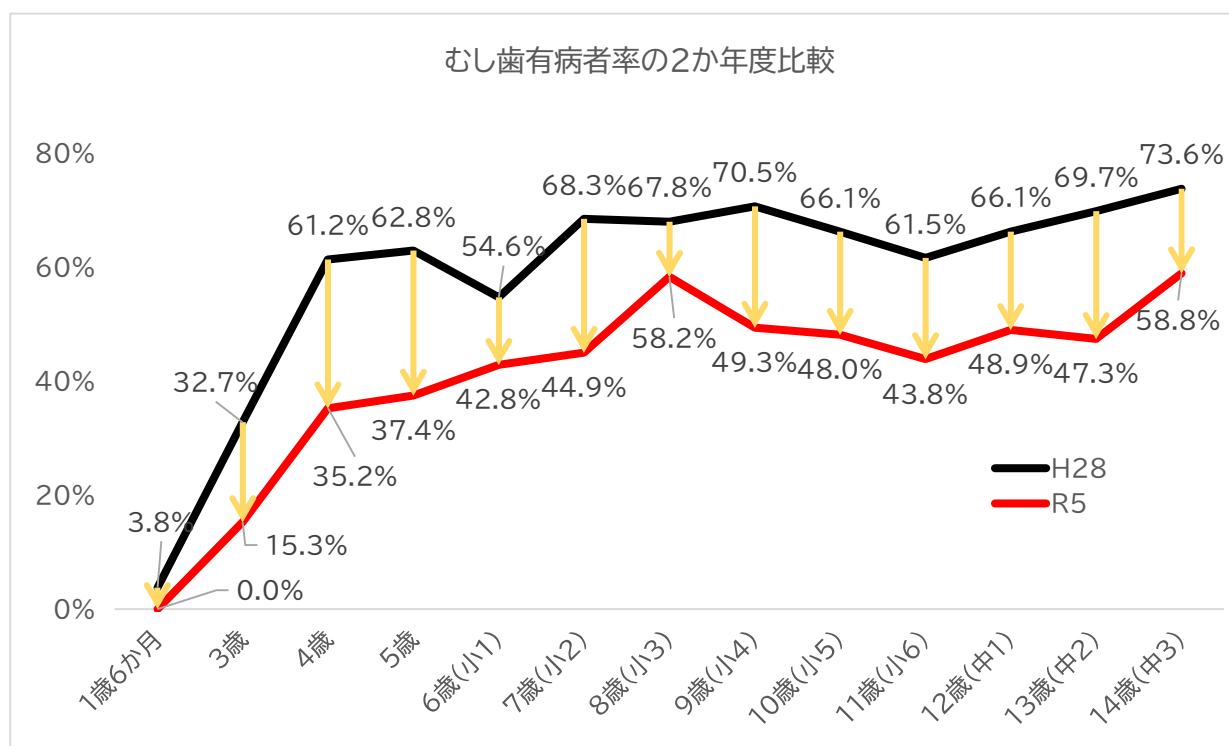
南島原市の子どものむし歯有病状況は、全年代で徐々に改善しています。



(2) 2か年度比較

南島原市の子どものむし歯有病状況について、平成28年度と令和5年度を比較したところ、これは、平成25年度から開始した集団のフッ化物洗口の成果とも言えます。

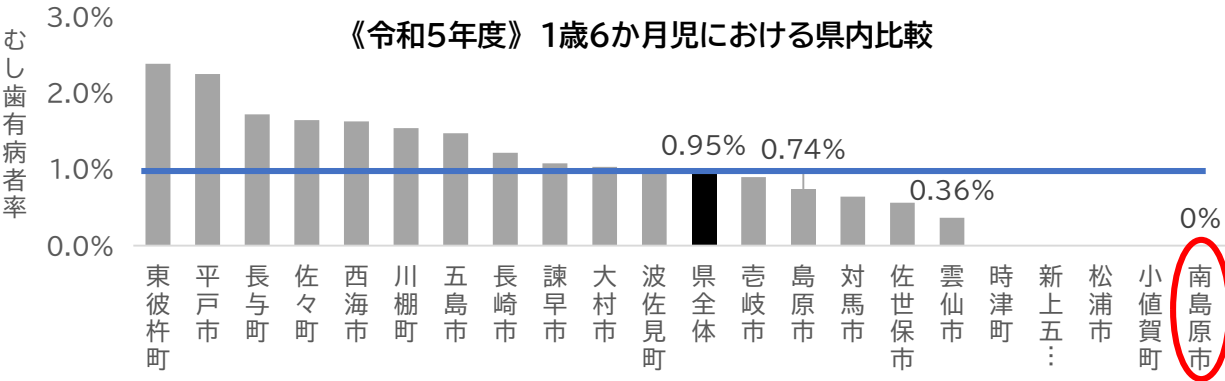
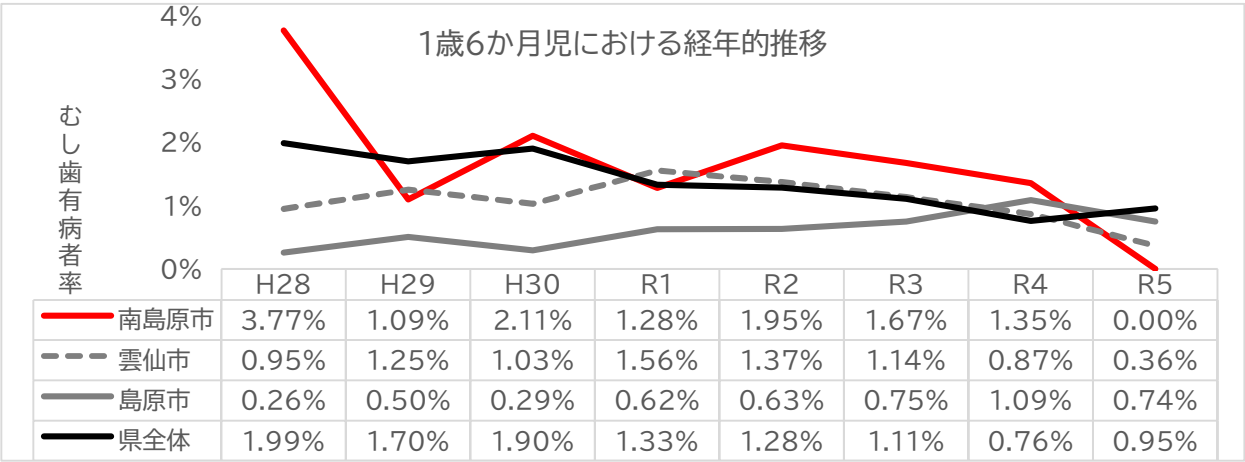
今後は、乳歯が生えそろう3歳までや、乳歯から永久歯に生え変わる時期の小学生に対して、**糖質の上手なとり方やブラッシングの指導を含めた歯科保健の推進強化が必要です。**



2 南島原市と他市町と比較しました

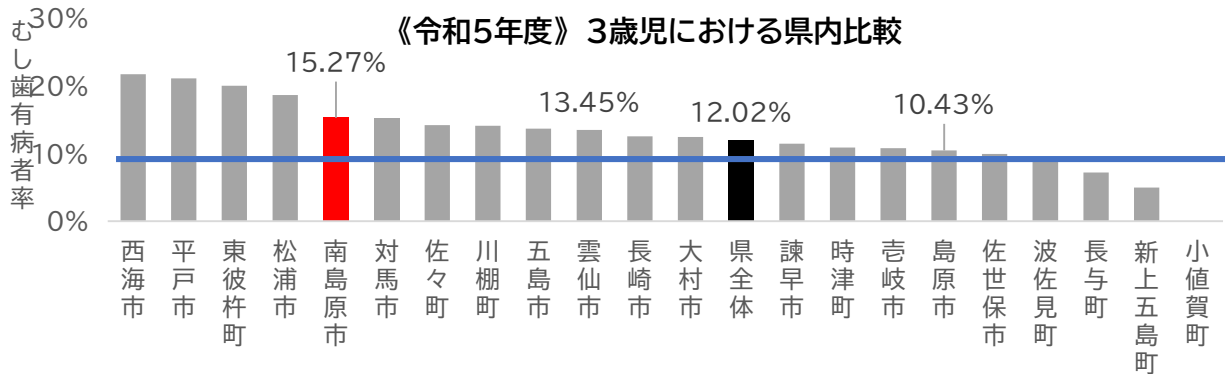
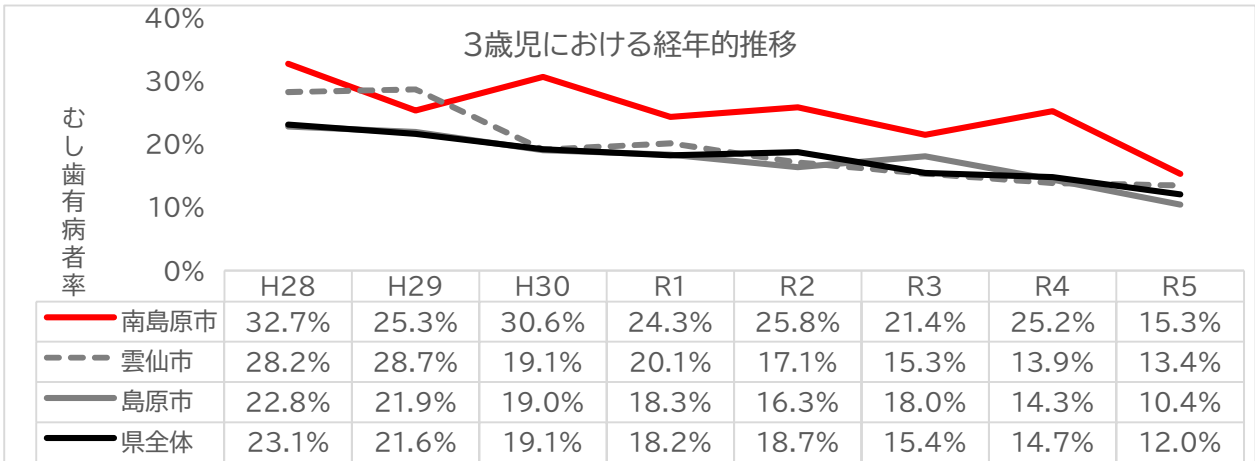
(1) 1歳6か月児

1歳6か月児のむし歯有病状況は、徐々に改善し、令和5年度の南島原市0%でした。



(2) 3歳児

3歳児のむし歯有病状況は、平成29年度からほぼ横ばいでしたが、令和5年度は令和4年度より10%近く減少しました。

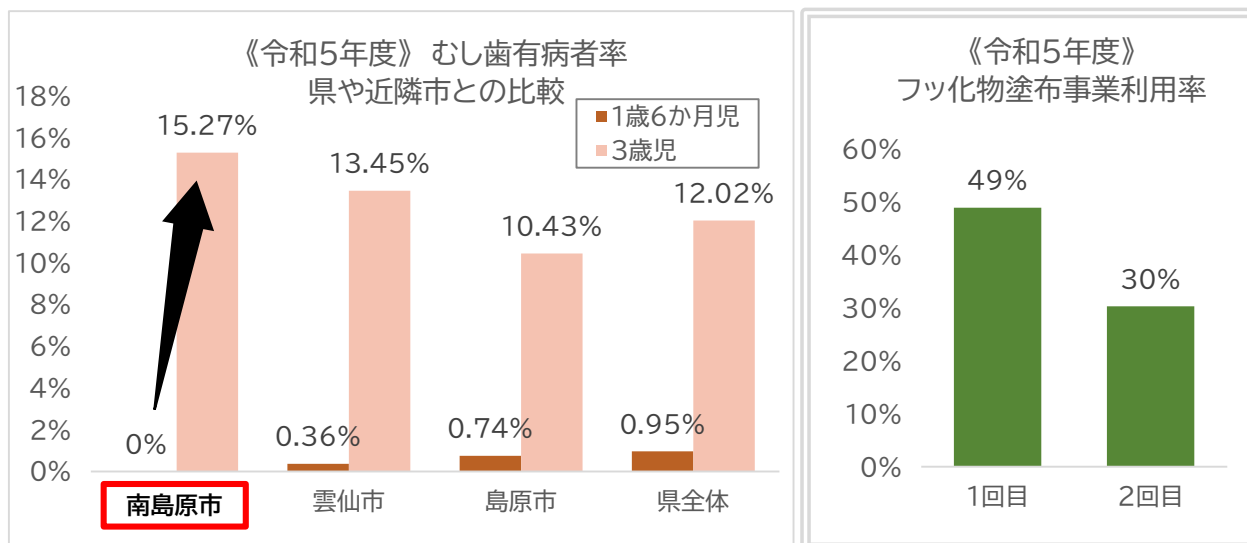


(3) 1歳6か月児と3歳児

むし歯有病者率は、1歳6か月児健診と3歳児健診で急増します。

乳歯が生えそろう3歳までは、甘いお菓子や飲み物の制限や仕上げみがきの徹底など家庭でより丁寧なケアが必要です。

また、フッ化物洗口ができない1～3歳児を対象とした「フッ化物塗布事業」では、歯科医院でフッ化物歯面塗布と同時にブラッシング指導も受けられますが、利用率が50%弱と低迷していることも課題と言えます。



(4) 12歳(中学1年生)

12歳(中1)のむし歯有病状況は、徐々に改善しています。

ただし、令和5年度の南島原市48.9%は、平成28年度の県全体44.7%より高く、永久歯が生えそろう時期の小学生に対する取り組み強化が必要です。

また、県内順位も平成29年度から令和5年度まで7年連続ワースト1位です。

